《Lesson 3》主格の関係代名詞： who / which / that

主格の関係代名詞は、「先行詞」が「関係詞節」の中で主格の働きをする時に使われます。

先行詞	主格の関係代名詞
人	who
人以外（動物・物・場所など）	which
人・人以外（すべて）	that

【主格の関係代名詞が入るフレーズ：作り方】

＜例1＞　「5か国語話せる男の子」というフレーズを作る場合

＜例2＞　「サッカー場が4面ある（その）公園」というフレーズを作る場合

ステップ①：それぞれのフレーズを、「先行詞」と「関係詞節に入る文」に分ける。

	先行詞	関係詞に入る文
＜例1＞	a boy ＜男の子＞	He can speak five languages. ＜彼は、5か国語話せる＞
＜例2＞	the park ＜（その）公園）＞	It has four soccer fields. ＜そこには、サッカー場が4面ある＞

ステップ②：「先行詞」と「関係詞節に入る文」の間に「関係代名詞」を置く。

＜例1＞ 使われる関係代名詞 = **who / that**

〔先行詞 (a boy) ＝ 人　　関係詞節の中の先行詞を表す代名詞 (He) ＝ 主各〕

＜例2＞ 使われる関係代名詞 = **which / that**

〔先行詞 (a park) ＝ 人以外　関係詞節の中の先行詞を表す代名詞 (It) ＝ 主各〕

	先行詞	関係代名詞	関係詞に入る文
＜例1＞	a boy ＜男の子＞	**who / that**	He can speak five languages. ＜彼は、5か国語話せる＞
＜例2＞	the park ＜（その）公園）＞	**which / that**	It has four soccer fields. ＜そこには、サッカー場が4面ある＞

ステップ③：「関係詞節に入る文」の代名詞を取る。

who / which / that は「関係詞節」で代名詞の役割を果たすため（だから関係代名詞）「関係詞節に入る文」で使われていた代名詞（He / It）を取る。

	先行詞	関係詞節（関係代名詞＋文）
＜例1＞	a boy 男の子	who / that can speak five languages. 5か国語話せる
＜例2＞	the park （その）公園	which / that has four soccer fields. サッカー場が4面ある

これらのフレーズを文の中で使うと、例えば以下のようになります。

＜例1＞　I have met a boy who (that) can speak five languages .
（5か国語話すことができる男の子に会ったことがあります）

＜例2＞　The park which (that) has four soccer fields is on that road.
（サッカー場が4面ある（その）公園はあの道にあります）

ポイント！　that よりも who / which の方が無難

that は、先行詞が「人・人以外」の両方で使えるため便利ではあるのですが、フォーマルの場では、先行詞が「人」なら who、「人以外」なら which の方が好まれるという考えもあるため、迷った場合は、who / which を使うのが無難でしょう。

〈例〉私は、5ヵ国語話すことができる男の子に会ったことがあります。
I have met a boy who can speak five languages. ＝ ◎
I have met a boy that can speak five languages. ＝ ○

ポイント！　受動態の形でよく使われる which

先行詞が「人以外」の際の主格の関係代名詞である which は、よく受動態の形で登場しますので覚えておきましょう。

＜例＞　This is a book which was written by a famous writer.
（これは有名な作家によって書かれた本です）

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。